

第1回研究会 平成29年5月23日16:30-18:00 サテライトキャンパス

長期在外研究報告

クイーンズランド大学におけるスポーツ施設活用法とオーストラリアのテニス事情について

平田 大輔 (文学部教授)

2016年4月1日から2017年3月31日の期間、オーストラリアで特別研究員(特例)として長期在外研究を行うことが出来た。

研究拠点である The University of Queensland (UQ) はオーストラリア・クイーンズランド州・ブリスベンにあり、世界大学ランキングで 上位100校以内に常にランクインしている大学である。またUQ には、142カ国からの11,500名を超える留学生を含む48,000名以上の多様な学生が集まり、学問、スポーツ、社会活動をサポートする施設を整えたキャンパス3カ所持っている。私が所属した学部は、School of Human Movement and Nutrition Sciences(HMNS)で、受け入れ先の Professor Cliff Mallett はスポーツ心理学・コーチング学が専門で、指導者の時には多くのエリート選手(リレーチーム)を輩出している。

また、UQにはUQ Sportという組織があり、施設、指導に関して管轄している部署があり、

専門のコーチ・スタッフ管理、指導を行っている。テニスコートは20面(ハードコート18面、オムニコート2面)、1面1時間20ドル前後(2000円ぐらい)で使用でき、学生は11時から2時まで1時間5ドルで使用できる。

特にジュニアのレッスンは多く行われている。レッドボール用のテニスコートも3面保有している。またFixtureという試合だけけどプログラムがあり、レベルごとにシングルの試合を中心に行っている。

オーストラリアはテニス王国と言われる時期があり、国別対抗戦であるDAVISCUPでは優勝回数が28回とアメリカに次ぐ多さである。その要因として、グランドスラム大会の一つであるオーストラリアンオープンの開催がある。その他、プロツアーのFutures大会、Challengers大会、Grand Prize大会も開催している。南半球ということもあり、アメリカ、アジア、ヨーロッパの選手たちの多くが集まっ

てくる。結果、オーストラリアの選手は自国にいながいろいろな選手と練習や試合を行うことができ、強化に繋がっていると思われる。

オーストラリアは日本と同じ島国のため、日本選手が国際大会で活躍するために参考にできることがあると思われる。ブリスベン国際やオーストラリアオープンといった大きな大会を誘致するだけでなく、Futures大会やChallengers大会も増やす必要もある。また、オーストラリアでは年齢の早い段階(16歳以降)で、ジュニアの試合ではなく、一般の大会に出場していくことは強化の参考になるかもしれない。

また観戦する立場でいうと、会場自体もテニスを観戦するだけでなく、様々なイベントがありファミリーで楽しむことができるようになっていることも日本は参考にできると思われる。



クイーンズランド大学



クリフ・マレット教授



UQスポーツ テニスセンター

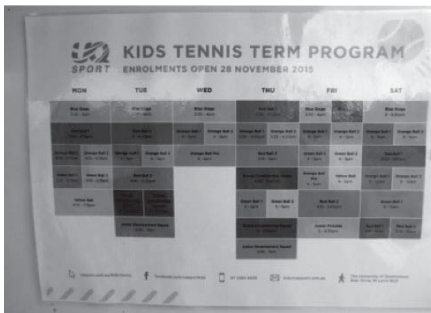


参考文献

平田大輔・佐藤文平・柴原健太郎・山口寛基(2017) オーストラリアテニスの過去・現在・未来-ATPランキングからみた日本との比較-専修大学スポーツ研究所紀要.40,31-42.

付記

本調査は平成 28 年度専修大学特別研究員(特例) 制度の成果である。



テニスプログラム



テニスセンター



キッズレッスン風景



ブリスベンインターナショナルテニスセンターで開催された25000 \$大会



ブリスベン国際テニストーナメント大会(グレード250)



オーストラリアオープンテニス大会(メルボルン)

